



おたより

2020年度 第3号

6月22日
桜の聖母短期大学
親と子のひろば

みなさん、いかがお過ごしですか？

短大では7月以降、これまでの遠隔授業から対面授業へと徐々に移行し、新生活様式での短大生活をつくりはじめているところです。「親と子のひろば」もそろそろ・・・と相談しています。学生の元気な声がキャンパス内に戻り、次は「親と子のひろば」の保育室と庭に、子どもたちと保護者の皆さまの元気な顔が集う番です。あと少し、お待ちくださいね。

齋藤美智子先生からメッセージ

新型コロナの関係でまだ「親と子のひろば」は休みですが、お元気ですか？

地域の子育て支援センターがようやく6月から始まりましたね。緊急事態宣言も解除され、世の中少しずつ動き出しています。まだまだ、コロナウイルス問題は解決したわけではありませんが、このウイルスともしばらく付き合わなければならないようですね。

この大変な状況に陥り、9年前の震災の時の思い出した方も多いのではないのでしょうか？あの時も、地域で子育てしている親子がよくセンターに訪れていました。そして、放射能への不安を顔を合わせ、話すことで少しだけ軽くすることができました。ところが、このコロナ問題の手強さは、何といたっても集えないことです。あの震災を経験した福島県民は、コロナの問題に直面し、あの時の先の見えない状況と重なったのではないのでしょうか。少なくとも、私はあの時の不安感を思い出しました。すっかり気持ちが沈んでしまいました。でも、目の前に子どもがいたら、落ち込んでばかりもいられませんね。

おうちで子どもと一緒に過ごしている保護者のみなさん。お疲れさま。ほんとうに疲れているのではないのでしょうか。

～イライラには、深呼吸をひとつ～

大人も生理的に、切羽詰まってきています。そんな時は、深呼吸するしかないですよ。

そして、子育ては、人生のなかでも最大の大仕事。あんまりかまえないで・・・と言われてもそうもいきませんね。なんでも楽しんじゃおうというのが、いいなと思うのですが、さて、どうしたらそうなれるのでしょうか。

子どもは、大人とは全く別の存在です。いわゆる“別モノ”なんです。でも、お母さんにしたら、自分のおなかから生まれてきたし・・・と思いますよね。責任も感じるし・・・でどんどん距離が近くなりすぎてませんか？ 我が子と付き合っ、「どうして、わかってくれないの？」と思うとき、じつは、子どももそう思っているんですよ。子どもなりの見え方、感じ方、思いがあります。何でもないときは、大人もそうそうと思えるのですが。このあたりが、子育てってむずかしいですね。そんな時は、深呼吸をひとつしてみましよう！一息ついて、気分を変えて・・・

この難局をどう切り開いていけばいいのでしょうか。なにかいい知恵はないものでしょうか。やっぱり、誰かと一緒に悩み、しゃべりながら進みたいですね。

また、お会いできる日を楽しみにしていま～す。

桜の聖母短期大学 齋藤美智子



2歳未満の子どもにマスクは不要、むしろ危険！

乳児のマスク使用ではとても心配なことがあります。

- ・ 乳児の呼吸器の空気の通り道は狭いので、マスクは呼吸をしにくくさせ呼吸や心臓への負担になる
- ・ マスクそのものやおう吐物による窒息のリスクが高まる
- ・ マスクによって熱がこもり熱中症のリスクが高まる
- ・ 顔色や口唇色、表情の変化など、体調異変への気づきが遅れるなど乳児に対する影響が心配されます。



★世界の新型コロナウイルス小児感染症からつぎのような点がわかってきました。

- ・ 子どもが感染することは少なく、ほとんどが同居する家族からの感染である
- ・ 子どもの重症例はきわめて少ない
- ・ 学校、幼稚園や保育所におけるクラスター（集団）発生はほとんどない
- ・ 感染した母親の妊娠・分娩でも母子ともに重症化の報告はなく、母子感染はまれです。



子どもの新型コロナウイルス感染症は今のところ心配が少ないようです。

2歳未満の子どもにマスクを使用するのはやめましょう

参考

＊米国疾病予防管理センター（CDC）の新型コロナウイルス感染症のQ&Aより

Q：子どものマスク使用について

A：2才以上の子どもが人と接するような外出をする場合にはマスク使用を薦めますが、2歳未満の子どもには窒息の恐れがあるため使用しないでください。

https://www.cdc.gov/coronavirus/2019-ncov/faq.html?CDC_AA_refVal=https%3A%2F%2Fwww.cdc.gov%2Fcoronavirus%2F2019-ncov%2Fprepare%2Ffaq.html#COVID-19-and-Children

＊アメリカ小児科学会（AAP）もCDCと同様に、2歳未満の子ども、とくに赤ちゃんのマスクは危険と警告しています。

<https://www.healthychildren.org/English/health-issues/conditions/chest-lungs/Pages/Cloth-Face-Coverings-for-Children-During-COVID-19.aspx>

CDCとAAPの警告に従って、アメリカのAmazonは0～3歳の子ども向けマスク広告を自社サイトから削除しました。

日本小児科医会メッセージへの質問に対する回答から、生活に役立つ情報をピックアップしました。

Q. ・2歳未満としたのは何故でしょうか。

・3歳からの園児や小学生なら問題ないと捉えてよいでしょうか。

A. ・乳幼児突然死症候群（SIDS）の増加がまず懸念されます。多くは1歳までの乳児で発症しますが、それ以降の報告もあり、2歳までの注意は必要だと考えます。また、言葉で伝えることがまだ未熟な2歳未満では、息苦しさを感しても伝えられず、周囲の大人もマスクのために表情を読み取りにくくなります。

・2歳以上でのマスク着用に問題がないとは言えません。特に暑くなる季節は熱中症の心配があります。1日中マスクをしていたらそれ自体が不衛生になり、かぶれ等も増えています。表情等が見えないため健康観察がしにくいので、気分が悪いなど体調不良を言葉で訴えにくい幼児に強要することは望ましくないと考えます。小学生でも「暑くて嫌だ、気分が悪い」という子どもの訴えを尊重することが大事です。

2歳児未満のマスクは危険、3歳以上も強要はしない、ことが重要です。

子ども間での感染はおこりにくく、またおきても無症状か軽症で済んでいます。

Q. 「マスク警察」など、マスクをつけずに外出している人に厳しい目を向ける人たちがいるほか、「2歳未満の子どもにマスクをつけさせることが危険」と理解している人ばかりではありません。どうしても2歳未満の子どもを連れて外出しなければならない親の中には、「マスクをつけさせたくはないが、人目が気になる」と後ろめたい気持ちを抱えている人もいます。そうした場合に、後ろめたさを多少でも和らげられる方法はありますか。

A. 医学的には、これまで「子どもから大人」「子どもから子ども」の感染の報告は極めて少ないのですが、現在のような社会状況ですから、そのような気疲れはよく理解できます。

人と人が2m以内に近づくような状況では、

- ・ベビーカーのシェード（日よけ）などを出す
- ・抱っこしている場合は親向きに抱いて他人に顔を向けさせない

などが考えられますが、一番は外では人との距離を保つことです。CDCも「マスクはソーシャル・ディスタンスの代わりにはならない」と注意を呼びかけています。

お庭の報告



昨年度の赤シソの根元に、小さな葉を広げた赤シソの赤ちゃんたち！ いつの間にか種が落ちて、新しい命が生まれました。

砂利の隙間からも元気に葉を広げています。冬の間、石の陰でじっとしていたその時を思うと、「偉かったね」と声を掛けてあげたくなりました。





杏（昨年までは梅と思っていたら、実は杏でした！）今年は2 kg 収穫でき、3名の学生さんが梅シロップを仕込んでくれました。念のため、食物栄養専攻の先生に、放射能検査も依頼中。



← 昨年秋に植えたジューン・ベリーも赤い実をつけました。小鳥たちを楽しませてくれたかな？

庭に立ち寄ってくれたYちゃん家族。サヤエンドウの収穫を体験してもらって嬉しかった！ サヤエンドウと豆腐の味噌汁を作って食べたとのこと。お味はいかがでしたか？



メダカの水槽に「ヤゴ!？」

一緒にメダカのお世話をしてくれている山下先生が発見してくれました。メダカが外にいたときに、トンボが卵を産んでいたのでしょうか。

山下先生は、「イトトンボのヤゴだよ」と教えてくれました。1匹はトンボにかえり、保育室にいた学生が庭に放してくれましたが、どうやらあと2匹いるようですよ。

子どもたちと観察して感動を共有したいなあ・・・



庭をつくったときのねらいの一つに、「生き物が集まる庭」が、ありました。自然がある場所に生き物が集まり、命がつながっています。子どもたちと学生たちは、遊びながら“命”を学びます。

一日も早く、また皆さんと、ここで集えますように。

文責 奥田美由紀



桜の聖母短期大学

🏠 福島市花園町 3-6

☎ 024-534-7137

(代表)

